

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第110回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

No pain Know pain

島田 明子 先生

大阪歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科 講師

平成29年11月6日（月） 17:30～19:00

歯学研究科大会議室（C棟 1階）

人口の約10%の人が経験したことがあると言われている顎関節症。その増悪因子についてはこれまで様々な要因が議論されてきたが、例えば、食事のような生活習慣に関連した要因についてはあまり注目されていない。

本講演では、演者がデンマーク・オーフス大学歯学部臨床口腔生理学講座で行った、グルタミン酸ナトリウム(MSG)の過剰摂取が顎顔面痛に与える影響の研究について、MSGの摂取と咀嚼筋痛との関係を健常被験者と咀嚼筋痛患者にて検証したプラセボ対照二重盲検比較試験を中心に紹介する。また、痛みの研究を行っている北欧の主要なラボで用いられている咀嚼筋痛モデルの作り方、咬筋の筋組織内のグルタミン酸の濃度の測定のために用いられたmicrodialysisおよび痛みに関連するバイオマーカーを分析するために用いられた咬筋のmicrobiopsyといった手法を紹介する。

研究内容に加え、演者の7年間のデンマークでの研究生活についても触れるので、海外で博士号を取得することや外国人研究者として働くこととはどういうものかを、一例として若い先生方に知ってもらえたらと思う。

連絡先: 第110回モデレーター 佐々木啓一、依田信裕（口腔システム補綴学分野）